

【研究主題】

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ～高学年教科担任制による効果的な指導を通して～

【学校教育目標】：三笠中校区三校共通

分かる授業 楽しい学校 夢の実現

- 目指す子供像
- 進んで学び、学んだことを生かす子供
 - 感謝と思いやりで、仲間と笑顔で過ごす子供
 - 目標をもち、粘り強く最後までやり抜く子供

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力、人間性等

教科担任制の効果的な活用

校内研修の充実

「4つの要素（項目）は相互に作用する・往還する。

質の高い授業

業務改善

多面的な児童理解

小・中学校間の円滑な接続と小・小連携

小・中九年間をつなぐ 小中一貫教育の推進

共通実践事項を柱とした授業改善

- 対話活動の在り方
 - ICT 機器の効果的な活用
 - 「脇本タイム（振り返り）」の工夫と充実
- 「北薩の授業づくり3ポイント」を意識した授業づくり
個人研究テーマ設定と一人一授業の実施



視点1：教科担任制を取り入れた学習指導

- 1 学習者主体の授業の在り方
- 2 複数の教師による児童理解の在り方
- 3 教材研究の効率化
- 4 中1ギャップ解消への効果的な取組

視点2：共通実践事項を柱とした授業改善

- 1 対話活動の在り方
- 2 ICT 機器の効果的な活用
- 3 「脇本タイム（振り返り）」の工夫と充実

社会の要請

- 中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（令和3年1月）
- 県教育委員会指定「小学校高学年教科担任制実践研究」モデル校として

本校の実態

- R5年度標準学力調査より（全国比）
 - ・ 5年生 → 算数 66.3 (+8.2) 理科 83.3 (+17.0) 外国語 89.1 (+8.3)
 - ・ 6年生 → 算数 80.9 (+7.1) 理科 81.8 (+12.1) 外国語 83.6 (+3.8)
- 全国学力・学習状況調査、鹿児島学習定着度調査より
 - ・ 知識やデータを活用し、自分の考えを表現する力
 - ・ 根拠をもとに判断する力
- 学び方のスキル ○ コミュニケーション力

令和7年1月30日
阿久根市立脇本小学校

研究の視点1 教科担任制を取り入れた学習指導(教科担任制の効果的な活用)

専科教員等が担当する教科と時数

	社会	算数	理科	音楽	美工	外国語	技術(中学)	
3年	理專3 習熟度 理專3				5-1 担1			
4年1組	特支2組担 2.6	理專3		特支3組担 2	5-1 担1			
4年2組		理專3			5-1 担1			
5年	5年 理專3 習熟度 理專3 1.4	中学生音 1.4	SET 加配2					
6年	5年 理專3 習熟度 理專3 1.4	中学生音 1.4	SET 加配2					
折多小6年		理專5 習熟度 理專5						
三笠中1年				5組1				
三笠中2年				5組2(1×2学級)				
三笠中3年				5組0.5				

<学校間連携による授業>

- ・ 小・小連携 小→小 折多小の5年算数学科
- ・ 小・中連携 小→中 三笠中の1~3年技術科
- ・ 小・中連携 中→小 脇本小の5・6年生音楽科

教師の負担軽減(業務改善)

月	火	水	木	金	土
5-1 算數	5年 理科	5-1 外国語	5-2 音楽	6年 理科	
1 6年 理科	5-1 算數	6年 算數	6年 算數		
2 6年 外国語	5-2 外国語	6年 外国語	5-2 音楽	5-2 算數	
3	5年 理科	5年 外国語	5-1 算數	6年 算數	
4 6年 理科	5-2 理科	5年 理科	5-1 算數	6年 理科	
5 5-1 理科	5-2 算數	5-1 音楽	5-2 音楽	6年 外国語	
6 委員会活動 代表保護委員会 クラブ活動	6-6 時評セミナー 音楽教室				

- 市教委(SET 加配), 三笠中学校, 折多小学校と調整を行い作成した。
- 行事等がある場合は、各担当でその都度調整を行っている。

<教科担任に特化した時間割>

- ・ 同学年複数学級の指導による教材研究・授業準備の効率化
- ・ 算数プリントの共有(6年担任と算数習熟度担当)
- ・ 家庭学習の取組(教科担任が作成、担任の負担軽減)

質の高い授業



実験の変化を動画で撮影。
(4年 理科)

①分かったこと(分からなかったこと), 気付いたこと, できるようになったこと(できなかつたこと)

11月11日(図形の面積)
すごく傾いてる高さを調べるには、これまでに習ったことをひいて、右の図のように平行四辺形や長方形に直すことで求められると分かった



児童同士の対話で単語を推測する様子。
(4年 外国語活動)

- ・ 教科の専門性を生かした授業を展開することができ、学力向上につながる。
 - ・ 同学年複数学級の指導が授業改善につながる。
- (5年生脇本小2学級, 折多小1学級 計3学級)
- ・ 学年間の系統性が意識でき、授業改善の視点が明確になった。
 - ・ 学び方の継続に取り組ませやすい。
 - ・ 小・小連携 ・ 小・中連携 ・ 小中一貫教育

<北薩の授業づくり3ポイント>

北薩の授業づくり3ポイント

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した「単元・題材別及び一位時間」の授業づくりポイント

1 目標の明確化

課題(図面)・問題を兔める「めあて」

□ 子供の「めあて」を明文化

2 子供が選ぶ・決める学び

授業最適な学び

□ 子供が自分たちの学びの主導権をもつて授業づくり

3 振り返りの充実

学びのまとめ・振り返り

□ 子供による「まとめ」

□ 「分かった・できた」(守護の学び・守護が分)の実感

○ 分かって・わかる(「なぜか」「どうしてか」)

○ 分かる(「なぜか」「どうしてか」)

○ さらに分かること(「なぜか」「どうしてか」)

確かめテスト等による確かな定着

□ 長期の汽泡用(全国学力・学習状況調査等)の問題

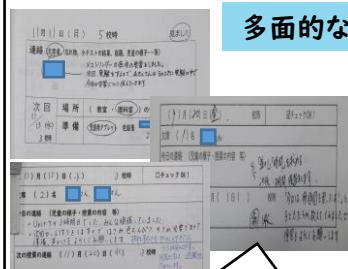
□ 次回・家庭学習の確認

□ 実習(学習・子育て)と授業の連動

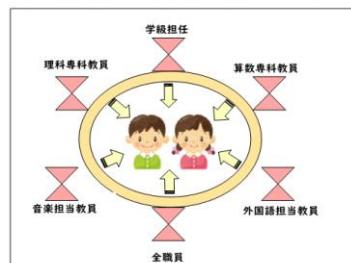
自ら学習(個別的な学習から始める)

全ての教員が「北薩の授業づくり3ポイント」を意識した授業を実践できるよう、職員研修で共通理解を図った。

多面的な児童理解



連絡ファイルの活用



- ・ 複数の教員が教科指導に当たるため、多面的な指導・支援ができる。
- ・ 児童に関する情報交換や情報共有ができる、教員同士の連携を深めている。
- ・ 児童がどの職員にも話しかけやすい雰囲気作りに努めている。
- ・ 毎月、職員会議前の生活保健指導会での情報共有と全校体制での支援に努めている。

小・中学校間の円滑な接続と小・小連携

三笠中校区三校共通実践事項

☆ 学習指導部会

- ・ ラスト10分(振り返り)の充実

☆ 生徒指導部会

- ・ 自主的なあいさつ・返事

☆ 保健安全指導部会

- ・ 体育の授業で5分間運動の実施
- ・ 寝る前1時間は、メディアと離れて睡眠時間の確保
- ・ 学校教育目標を三校で統一することで、目指す方向性を共有できる。
- ・ 乗り入れ授業で、学び方の継続に取り組ませやすい。
- ・ 乗り入れ授業で、教師間の連携・交流が深まる。
- ・ 進学前、進学後の子どもの様子を共有できる。(小中一貫教育授業参観週間:6月末)
- ・ 中1ギャップへの対応ができる。
- ・ 三笠中校区小中一貫教育合同研修会(8月)を実施することで、同僚性を高めることができる。

研究の視点2 共通実践事項を柱とした授業改善（校内研修の充実）

① 対話活動の在り方

「バズタイム」



かしこまらずに、気軽に話す、聞く。

対話活動サポートカードの活用

「バズタイム」 べちゃくちや、おしゃべりしよう！(お答えバージョン) 3～6年生	
こんなことをつたえたい！	つたえかた・いいかた・はなしかた
1 自分の考えや思ったことを言いたいな。	<p>「わたしは、～だとうよ。」 「わたしの考えは、～だよ。」 「わたしは、～だと予想したよ。」 「～に、～だと書いてあったよ。」</p>
2 理由やわけを言いたいな。	<p>「そのわけは、～だよ。」 「それは、～だからだよ。」 「～と考えたのは、～だからだよ。」 「それは、〇〇〇といい資料から分かることよ。」</p>
3 賛成、同じ考え方だ。	<p>「わたしは、～どいう考えに賛成だよ。」 「～どいう理由から、～どいう考え方と同じだよ。」</p>
4 相違、ちがう考え方だ。	<p>「わたしは、～どいう考え方とはちがって、～だと思うよ。」 「〇〇さんの考え方よりも分かること、～どいう考え方もあるよ。」</p>
5 付け加えたいな。 似ているな。	<p>「〇〇さんの相似に付け加えたいな。」 「～どいう考え方似てるよ。」</p>
6まとめたことを伝えたいな。	<p>「わたしたちのグループでは、～どいう考えになったよ。」 「～どいう意見が多く出されたね。」</p>

～臨本小学校 対話活動サポートカード～

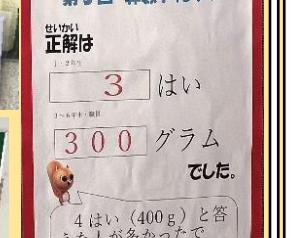
「バズタイム」 べちゃくちや、おしゃべりしよう！(司会・進行バージョン) 3～6年生

「バズタイム」 べちゃくちや、おしゃべりしよう！(司会・進行バージョン) 3～6年生	
こんなことをはなしやしたい！	たずねかた・きかかた・はなしかた
1 みんなの考えや思ったことを聞きたいな。	<p>「〇〇さんは、～について、～ど思つたの。」 「〇〇さんは、～について、どんな考えがあるの。」</p>
2 理由やわけを聞きたいな。	<p>「〇〇〇さんは、どうして～ど思つたの。」「それで、〇〇〇ってこと。」</p>
3 賛成の考えはあるかな。	<p>「〇〇〇さんと、同じ考え方の人はいる。」 「同じ考え方の理由を教えて。」</p>
4 ちがう考え方はあるかな。	<p>「〇〇〇さんの考え方とは、少しちがう考え的人はいる。」 「ちがう考え方の理由を教えて。」</p>
5 付け加えや似ている考え方を聞きたいな。	<p>「～どいう考え方付け加えたいことはある。」 「～どいう考え方似ている考え方はある。」</p>
6 考えをまとめたいな。	<p>「みんなの考え方をまとめてると、～ってことであって。」 「わたしたちのグループの考えは、～ってことでいいかな。」</p>

～臨本小学校 対話活動サポートカード～

② ICT 機器の効果的な活用

☆ 校内の環境整備

			<p>Ⅰ 学期に、職員研修テーマに沿った個人研究テーマを設定し、一人一授業を含めた実践的な研究を行い、個人研修の充実を図っている。また、毎学期、報告会を行い、意見を交流している。</p>
<p>面積の公式(高学年)</p>	<p>外国語の単語</p>	<p>算数チャレンジ</p>	<p>① 対話活動の在り方 <input type="radio"/> 主体的に学べるような教材教具を用意したり、発問を精選したりする。 <input type="radio"/> 対話活動が得るよう活動の流れを提示したり、対話の観点を提示したりする。 <input type="radio"/> 対話活動を通して、他の考へに気付かせたり、自分の考へを深めさせたりできるような工夫をする。 ② ICTの効果的活用方法 <input type="radio"/> デジタル教科書やノートを効果的に活用し、児童が学習に主体的に取り組もうとする。 <input type="radio"/> 本校での活動などにとどまらず、学習したことや活動の内容を蓄積し、他の授業や他の教科との学習に生かす。 ③ 「読みタクム（振り返り）」の工夫 <input type="radio"/> 振り返る時間を設け、時間で何ができるようになったか、何を学んだか一人一人が振り返ることができるようになる。</p>
<p>・ 各学年で必要だと考える用語・公式等の階段への掲示</p>	<p>・ 校内の様々な場所に学びの場を設置</p>	<p>・ 量感を養うための算数チャレンジ</p>	<p>① 対話活動の在り方 <input type="radio"/> 言葉や概念を提示するなど対話活動が発生するような工夫をする。 ② ICTの効果的活用方法 <input type="radio"/> 一人一台タブレット端末の活用方法を考えていく必要がある。 ③ 「読みタクム（振り返り）」の工夫 <input type="radio"/> 本校でできることになったことをミニプリントや言葉を振り返る時間を設けたが、準備時間が少なかったといったら、工夫が必要である。</p>
<p>2学術に向けて</p>	<p></p>	<p></p>	<p>① 対話活動の在り方 <input type="radio"/> 言葉や概念を提示するなど対話活動が発生するような工夫をする。 ② ICTの効果的活用方法 <input type="radio"/> 一人一台タブレット端末の活用方法を考えていく必要がある。 ③ 「読みタクム（振り返り）」の工夫 <input type="radio"/> 振り返る時間が慣習できるようにパターン化するなど、どのように取り組んでいくか考え、実践する。</p>

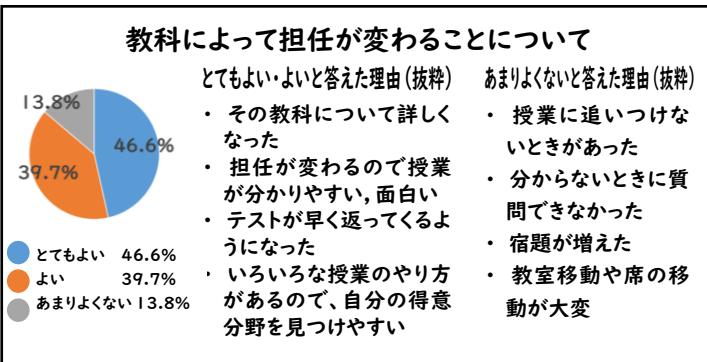
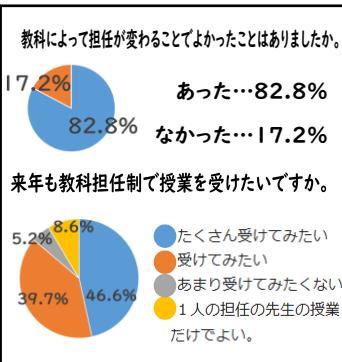
【研究の成果と課題】

I 教科担任制について

成果 ○ 課題 ●

- 教科担任が綿密な授業準備を行うことで、教科の専門性を生かした質の高い授業が実施されると感じた。
- 教科担任が授業を実施することで、子供たちが様々な指導法や学び方を知ることができ、自分でよりよい学び方を選択することにつながっている。
- 算数科、理科、外国語科の授業を同じ教師が行うことで、教科の系統性を生かした授業改善の視点が明らかになった。
- 学級担任と教科担任が連携を図ることで、多面的な児童理解につながり、子供たちの学習意欲の高まりが見られた。
- 連絡ファイルを活用したことで、放課後や気になることがあったときに児童の様子を伝え合うことができた。
- 外国語科については、昨年度、学級担任をしながら他4学級の授業を行っていたため、空き時間は週2回程度だった。今年度は、学級担任をしながら他3学級の授業を行っており、空き時間は週5時間程度確保できている。また、昨年度作成した教材も活用することができる等、少しずつ業務改善されてきている。
- 6年担任については、空き時間が週7時間程度確保でき、教材研究や学級事務の時間が増えた。
- 欠席児童がいた場合の授業の補充や家庭学習の見届けが必要な場合、十分な指導時間の確保が難しい。
- 日程変更や行事の実施に伴う時間割の調整を考慮する必要がある。
- 教科ごとに宿題が出されるので、教科担任間で子供の負担にならないように量や内容の調整が必要である。

<児童アンケート>



中学校進学について(抜粋)

- 不安はない・あまりない(63.1%)
- ・ほとんど今まで通りだから。
- ・慣れないといけないから。
- ・いろいろな先生と話すことができるから。
- 不安・少し不安(36.7%)
- ・先生によって授業の速さが違い、追いつけるか心配。
- ・分からぬことを質問できるか分からぬから。

2 校内研修の充実について

- 対話活動サポートカードを活用することで、形態に合わせた交流の仕方を意識しながら話ができるようになってきた。
- 授業の中でバズタイムを取り入れることで、自分の意見を相手に伝えることに抵抗がなくなってきた。
- ロイロノートを活用することで、互いの意見を共有しながら、よりよい考えに気づき、考えを深めることができた。また、共有されている友達の考えをヒントにすることで、課題解決ができるようになってきた。
- 動画の撮影や、音声録音をすることで、自分の学びを客観的に分析することができた。また、イヤホンを活用することで、自分のペースで集中して個別学習に取り組むことができた。
- 操作可能な教育ソフトやテスト機能を活用することで、学習内容の理解を深めたり、定着までの練習を重ねたりすることができるようになってきた。
- 振り返りの際、カードごとに具体的な例文で提示することで、より具体的で焦点化した振り返りができるようになった。
- 振り返りをロイロノートに蓄積することで、前時の振り返り・次時の見通しをもちやすくなった。
- 互いの意見を出し合うことはできるが、それを一つにまとめたり、内容を精選して発表したりすることが難しい。
- ICT機器を使う場面(操作する)とノートを使う場面(書く)とのバランスが難しいので、作業を精選する必要がある。
- 対話場面でICT機器を活用すると、目を見て話し合うことができないので、どの場面でどのように使うのかということを授業の中で見通しをもって進めいかなければならない。
- 単元を見通して計画を立て、毎時間の振り返りができるよう授業改善していく必要がある。

算数科:5年1組教室

○ 単元名「体積」(5/8)

解決の見通しの中から解決できそうな方法を選択し、一人や少人数などの学習形態で体積を求めていきます。



本日の公開授業の見どころ

外国語科:6年教室

○ 単元名「折多小のみんなに 脇本 best memory を伝えよう」(6/8)

My プランを進める際は、お手本音声やデジタル教科書を自分のペースに合わせて活用することで、個別最適な学びを確保できるようにします。



理科:5年2組教室

○ 単元名「ふりこのきまり」(5/7)

必要な器具や機器を選択し、それらを正しく使いながら調べることで、実験の結果を基に考察したり、表現したりして問題解決できるようにします。

